

キャリア教育新聞

No.19

2026年 8月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

職場体験の夏

市内5中学校で実施

7月、市内中学校の2年生にとって大きな節目となる「職場体験」のシーズンが訪れた。ある中学校が3年生を対象に行ったアンケート（昨年度を振り返り「印象に残っている学びや経験」を問うもの）では、「職場体験」と答えた生徒が約50%に上り、最も高い割合を占めたという。学校を飛び出し、わずか1〜3日という短い期間ではあるが、第一線の働く現場で過ごす体験は、まさに「越境体験」となり、生徒たちに計り知れない刺激と成長をもたらしている。

今年度、丘中学校では新たな試みとして、セイコーエプソン（株）広丘事業所での職場体験が初めて実現した。同事業所は約1,000人が従事する市内最大の事業所である。これまでは安全管理、製造品質維持等のため同事業所での受入れ実績はなかったが、プリンターの制御プログラム担当職場の協力のもとに受入れが実現した。

当日は、レジ用小型プリンターの制御プログラム作成業務体験が提供された。体験後の生徒からは「職場のピリツとした雰囲気を感じられた」「プログラミングは難しかったが、思い通りに動いた時はとても嬉しかった」と、充実感に満ちた声が聞かれた。

こうした「越境体験」がもたらす教育効果は多岐にわたる。中でも、学校という閉ざされた空間（「生徒」という役割）から、多様な大人や世代

が行き交う社会へと飛び込むことで、「自分の常識は社会の常識とは限らない」と気づくことの意義は大きい。この意識の変革こそが視野を大きく広げ、日々の学びへの新たな意欲へとつながっていく。

こうした貴重な学びの場は、受け入れ先企業の多大なご協力はもちろんのこと、事前調整や生徒へのきめ細やかな指導に奔走する学校現場の先生方の情熱によって支えられている。先のアンケート結果に表れた高い満足度は、まさにその成果の表れと言えるだろう。



セイコーエプソン（株）広丘事業所での職場体験（丘中学校）

ちょこっと探究コラム

探究のテーマは、実は身近に転がっている？

探究のテーマ設定が難しいという声をよく耳にします。実は多くの場合は、「すごい問題を見つけよう」「地域の課題解決につなげよう」と、探究のハードルを高く考えてしまっているのかもしれない。

例えば「忘れ物が多い曜日ってある？」「体育の後の授業は本当に集中力が落ちる？」「人気メニューの日は本当に食べ残しが減る？」など、そんな小さな「あれ？」に気づくことこそ、探究の第一歩です。まずは、身の回りのなぜ？どうして？本当に？をたくさん出してみるところから始めてみませんか。探究のタネは、案外すぐそばにあるはずですよ。



塩尻市社会福祉協議会
平澤 将太

共創共学プラットフォームメンバー紹介

塩尻市社会福祉協議会

協議会 地域福祉推進センターの平澤です。社会福祉協議会（社協）は

誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者や障

がいのある方の支援、困りごとの相談をはじめ、ボランティア活動の推進（担い手育成）など地域福祉の推進に関わる事業を幅広く展開しています。子どもたちが「福祉」や「ボランティア」を通して多様な人と関わり、自身の将来を考えるきっかけとしていただけたら嬉しく思います。

◆お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局（NPO法人MEGURU）
塩尻市教育委員会事務局学校教育課（0263-52-0280 内線：3112）